

※保護者の方へ：必ず読んでから接種してください。

ジフテリア・破傷風（二種混合）予防接種説明書

1. ジフテリアと破傷風の病気・症状について

ジフテリアは、ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。ジフテリアは感染しても 10 パーセント程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。感染は主にごのどですが、鼻にも感染します。主な症状としては、高熱・のどの痛み・犬吠様のせき・嘔吐等があります。偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病 2～3 週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

破傷風は破傷風菌がヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。患者の半数は本人や周りの人では気づかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力を持っていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

2. ジフテリア・破傷風（二種混合）ワクチンの有効性と副反応について

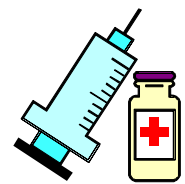
ジフテリア・破傷風（二種混合）ワクチンは、ジフテリアと破傷風二つの病気を予防するワクチンです。

注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応が主で、7 日目までに約 28.4% 認められます。なお、DPT（三種混合）ワクチンと同様に、硬結（しこり）は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。特に過敏な子で肘をこえて上腕全体がはれた例が少数あります。通常高熱は出ませんが、接種後 24 時間以内に 37.5℃ 以上になった子が約 0.1% あります。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師に相談してください。

《接種場所》 二種混合予防接種協力医療機関

《対象年齢》 11 歳以上 13 歳未満

《費用》 全額助成



3. 接種にあたっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談のうえ、接種するか否かを決めてください。また、お子様が以下の状態のときには予防接種を見合わせてください。

- ① 明らかに発熱（通常 37.5℃ 以上をいいます）があるとき
- ② 病気のかかり始めて薬を飲む必要があるとき
- ③ 心臓・腎臓・肝臓などに病気があり状態が良くないとき
- ④ 1 か月以内に麻疹・風しん・おたふくかぜなどのウイルス疾患に本人および家族がかかっているとき
- ⑤ 4 週間以内に他の生ワクチンを受けたとき
- ⑥ 1 週間以内に不活性ワクチンやトキシイドを受けたとき
- ⑦ 3 か月以内に輸血・ガンマグロブリンを注射している場合

4. 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

健康被害の程度に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

※給付申請の必要が生じた場合には、湯沢市子ども未来課へご連絡ください。

〈接種後の注意〉

- ① 予防接種を受けた後 30 分間は、実施場所でお子さんの様子を観察しましょう。
- ② 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。また、激しい運動はさけましょう。
- ③ 予防接種後 1 か月間は、抜歯・扁桃腺摘出術・ヘルニア手術等は原則としてさけることが望ましいといわれています。

問い合わせ 湯沢市子ども未来課（こども家庭センター）
子ども子育て応援班 電話：55-8275